

授業科目名	乳児保育Ⅱ	教員名	小川 美由紀 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	FOI103	配当年次	2 年前期	こども音楽療育士		
授業形態	演習			情報処理士		
単位数	1 単位					
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された、乳児保育に関する専門的な知識や技能を学ぶ。0・1・2歳児の発達や、生活・遊びの過程を理解し、職員間の連携・協働等を活かした具体的な体制を想定した保育を構想する方法を身につける。					
到達目標	(1) 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 (2) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 (3) 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 (4) 上記(1)～(3)を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	保育所・認定こども園で生活する0～2歳児が、食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身のまわりを清潔にするなどの基本的な生活習慣を、主体的に身につけていくための保育者のかかわり・援助について学ぶ。また0～2歳児の保育内容について映像や演習を通して体験的に理解し、実践する。乳児保育における指導計画、観察・記録及び自己評価についても具体的な理解を深め、保育現場での実践につなげていく。これまでの現場経験から、子ども理解を深めるための対話の機会を設けたり、経験談を踏まえた助言や提案、映像などを用いたりして、0・1・2歳児の保育のイメージを深める。					
履修条件・注意事項						
授業計画	第1回：乳児保育の基本から応用へ1 (1) 乳児保育の基本を復習し、実践に応用することについて概説する。 第2回：乳児保育の基本から応用へ2 (1) 3歳未満児の主体性が尊重されるための関わりや保育環境について解説する。 第3回：乳児の生活・保育内容の実際1 (2) 睡眠、栄養摂取、離乳食の概要、離乳の開始、排泄、衣服選びや着替えの援助についての知識を深め、援助の要点について概説する。 第4回：乳児の生活・保育内容の実際2 (2)(3) 乳児の保育内容の実際について、映像の観察、記録を通して解説する。 第5回：1歳以上2歳未満児の生活・保育内容の実際1 (2) 睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全についての知識を深め、援助の要点について概説する。 第6回：1歳以上2歳未満児の生活・保育内容の実際2 (2)(3) 1歳児の主体性を大事にした保育者のかかわりについて解説する。 第7回：2歳～3歳の子どもの生活 (2) 睡眠、食事、排泄、着替え、安全についての知識を深め、援助の要点について概説する。 第8回：2歳児の保育内容とその実際1 (2)(3) 保育ウェブについて解説し、ウェブを用いて2歳児の保育内容を考える。 第9回：2歳児の保育内容とその実際2 (2)(3) グループで立案した保育内容を発表する。 第10回：2歳児の保育内容とその実際3 (2)(3) グループで立案した保育内容を発表する。					

	<p>第11回：乳児保育における計画と評価1 (4) 乳児保育における指導計画について概説する。</p> <p>第12回：乳児保育における計画と評価2 (4) 実践内容で指導・助言を受けた部分を踏まえた指導案を作成する。</p> <p>第13回：観察・記録及び自己評価 (4) 乳児保育における観察の視点及び記録のポイントについて説明する。</p> <p>第14回：乳児保育における連携・協働 (1)(4) 職員間・地域の関係機関との連携が必要な場合の対応について、事例をもとに解説する。</p> <p>第15回：まとめ～3歳未満児の主体性を尊重する保育のために～ (1)(2)(3) 子どもの主体性を尊重した乳児保育についての考えを深め、健やかな生活や遊びを支えるための保育者の在り方について考え、解説する。</p> <p>学期末試験</p>
授業外学習時間の確保について	◎提出課題：講義の内容に対応した課題を適宜配付する。予習として取り組んだ場合には、不明な点等を明確にしておく。また演習の内容について自分なりに復習し、提出期日までに理解しておく。
学生に対する評価	<p>試験50%、グループ発表・課題提出30%、ワークシート・授業外学習20%をもとに総合的に評価する。なお、授業外学習等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・回答例を配付する。
テキスト	「乳児保育 I・II」後藤由美・菊地篤子（中山書店） ISBN番号 978-4-521-75114-6
参考書・参考資料等	<p>「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p> <p>「乳児保育 演習ブック [第2版]」松本峰雄 監修 ミネルヴァ書房</p> <p>「乳児の保育 新時代」乳児保育研究会</p>
担当者からのメッセージ	生きる根っこを育む0・1・2歳児の保育について学び、乳児保育の実践力を高めましょう！
オフィスアワー	毎週月曜日14:00~17:00, 木曜日14:00~17:00, 金曜日10:00~15:00 Email: mogawa@miu.ac.jp
備考	・保育者歴20年の経験と母親としての子育て経験を活かし、赤ちゃんや小さい子どもの姿をイメージできるよう、動画や現場の写真などを用いながら授業を行います。また、子どもの人権を擁護することの重要性や子どもが主体となる保育に必要な保育環境の視点について、宮崎学園短期大学附属園の実践事例をもとに、対話をしたり、考えたりしていきます。子どもを丁寧に見ていくことの大切さと、子どもの世界の面白さを味わっていきけるような学びの場を共に作っていきましょう。